

先行案件：バングラデシュ国非感染性疾患リスク低減事業の成果・教訓

目的は地域全体の非感染性疾患（NCDs）リスク低減
直接的な治療支援や医薬品の配布ではない

バングラデシュのNCDsリスク要因

危険な水、大気汚染・たばこ、偏った食事、運動不足

根本的な原因

NCD予防の知識がない

因果関係の理解が困難（教育格差）

ジェンダー課題
早婚や行動規制

早期発見の機会がない

保健医療サービス
遠い、高い、ない

NCDsの治療薬は
必須医薬品外

環境整備の体制なし

現場の状況が上部機関に届かない。

専門病院に蓄積される
知識がリスク予防に活用されない

日々の食事に困る人が糖尿病や脳卒中に...



ハシナさん45歳：若い頃から貧しい暮らしだったが、30歳で糖尿病の診断を受ける。現在は、足の裏の糖尿病性潰瘍のせいで歩行も厳しい。夫も病弱で収入が低く、医療機関に継続的にかかることができない。近隣住民の支援を受けることができた時のみ薬を使用。



モリオムさん35歳：脳卒中を疑われる症状11歳で結婚。13歳で長男(障害児)出産、15歳で次男出産。17歳で第3子を死産してから避妊薬を服用開始。そのころから重い頭痛に悩む。2014年秋に倒れ全介助に。検査・診断・治療を受けられないまま2015年6月死亡。

NCDsリスクの少ない地域を目指す

健康教育(モスク・学校・薬局等)



早期発見の機会拡大
住まいの近くで・安く・確実に！



環境整備



野菜摂取のための家庭菜園普及



ヒ素による癌を防ぐための水質検査

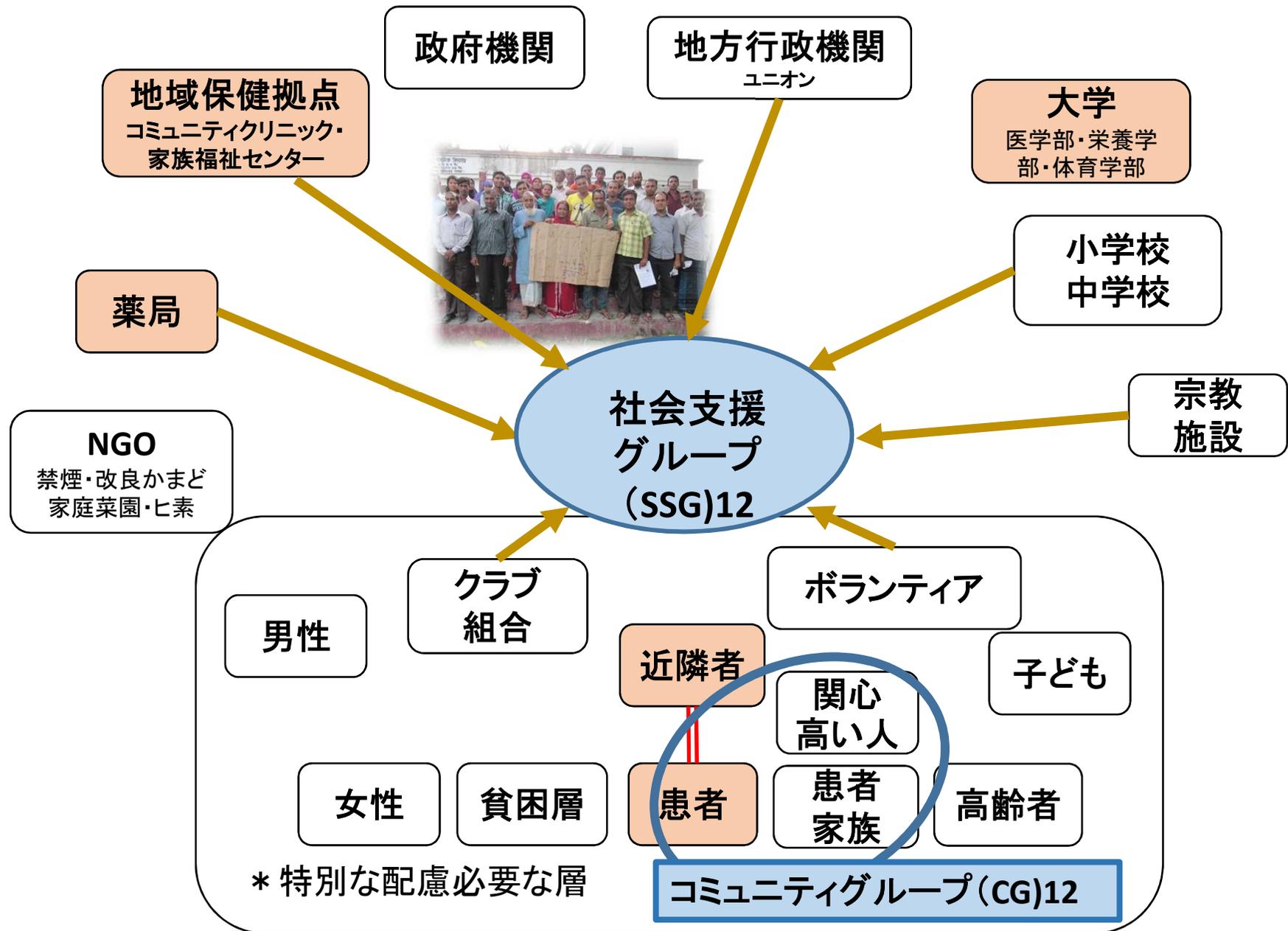


運動習慣



改良かまど普及と禁煙

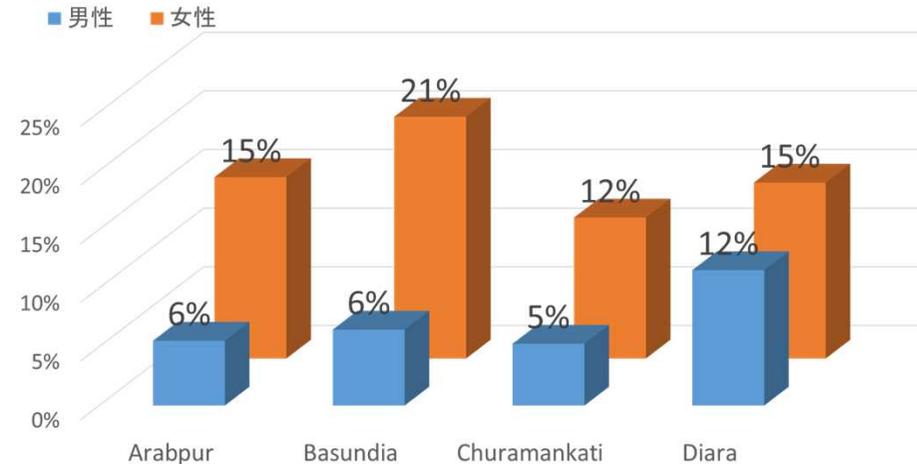
地域内の関係者→二つのグループ形成



社会支援グループによる健康診断キャンペーン



健康診断キャンペーン地区別・男女別の参加割合(対象年齢人口)



「アクセスが悪い地域の女性」の参加割合が最も高い

☆参加者数：約12,629人(女性8,663人、男性3,966人。対象人口の12%)

2013年11月より開始した社会支援グループ(SSG)主催の健康診断キャンペーン。身長、体重、腹囲、血圧および血糖値測定と健康教育を組み合わせ実施し、住民の健康意識を高め、生活改善を促進することが目的。保健ワーカー、学生ボランティアも協力。

コミュニティクリニックのNCDsサービス

いつでも、家の近くで、安く健康診断が受けられる場所

健康診断キャンペーンをきっかけに地域の地域保健施設でも非感染性疾患サービスが開始



血圧・BMI等測定結果を利用者に配布している



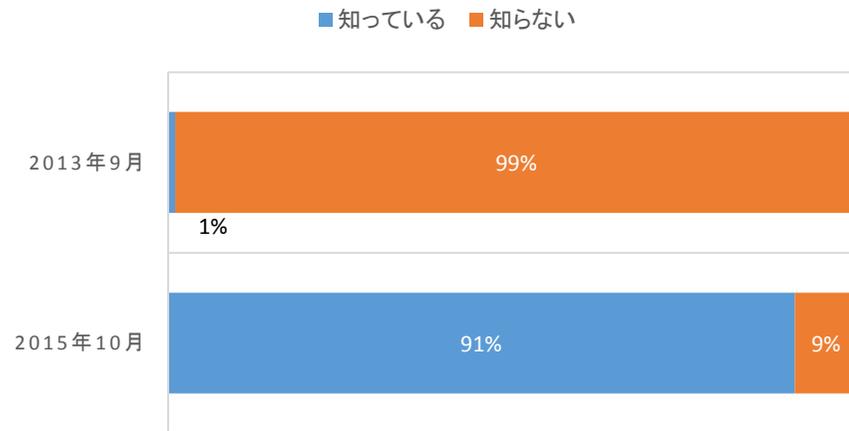
保健ワーカーの手作り測定結果を書くカード

血圧・血糖・BMI
ヒ素中毒症の検査
がいつでも受けられます。

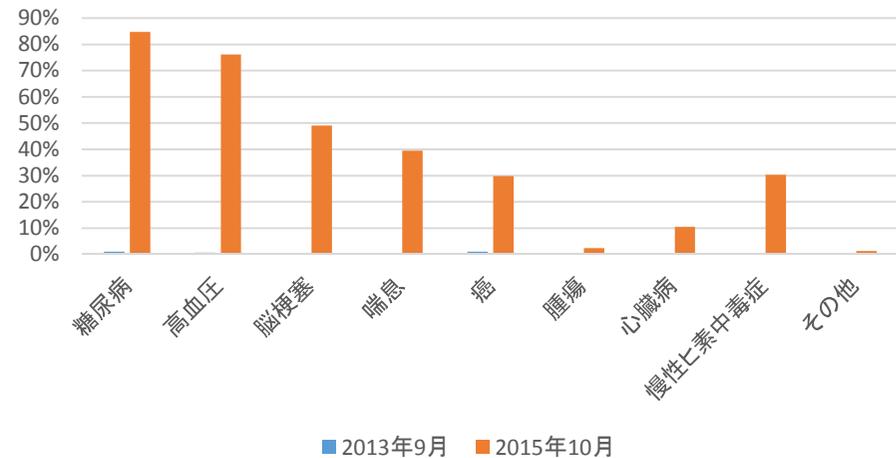


479人の調査の結果(ベースラインとフォローアップ比較)

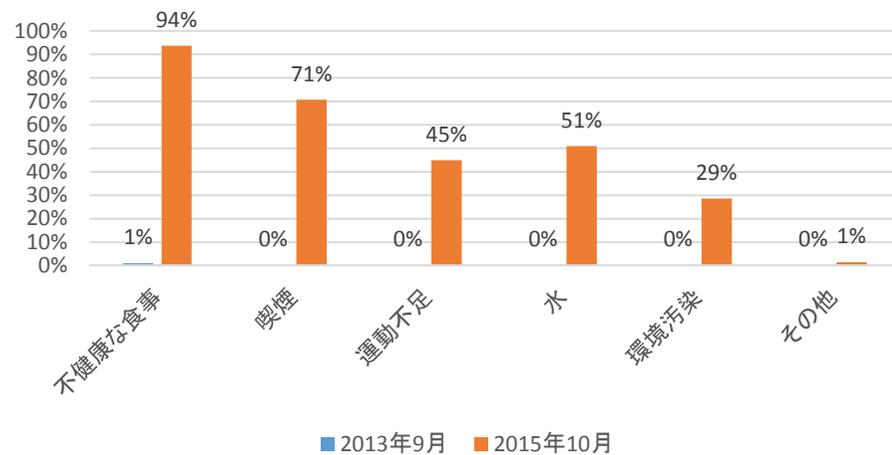
NCDsを知っていますか？



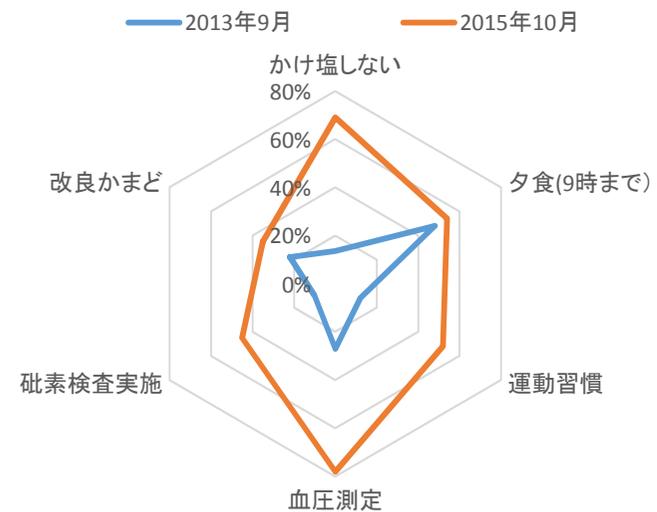
NCDsの中には何の病気が入りますか？



NCDsの原因を知っていますか？



生活習慣の変化

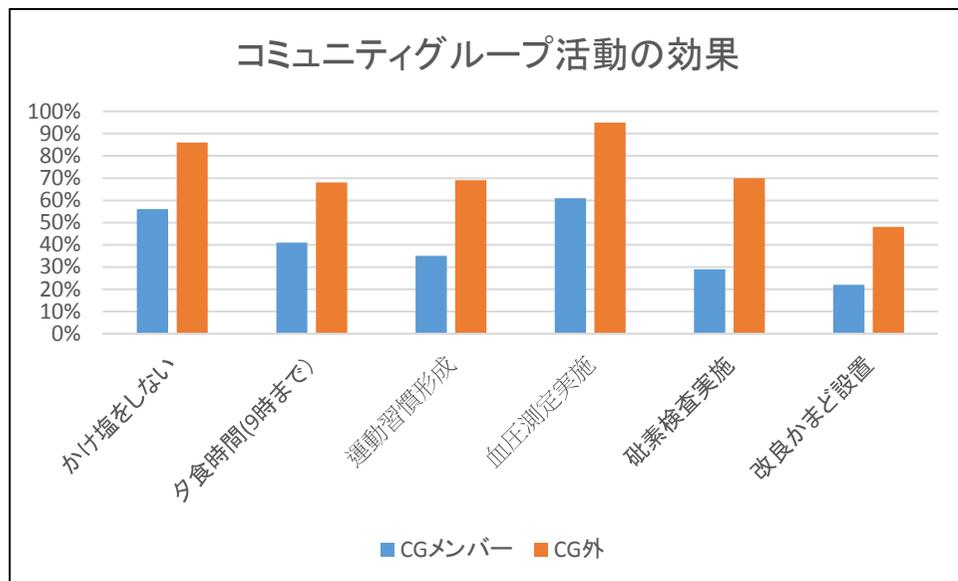


コミュニティアプローチの効果

生活習慣の変化

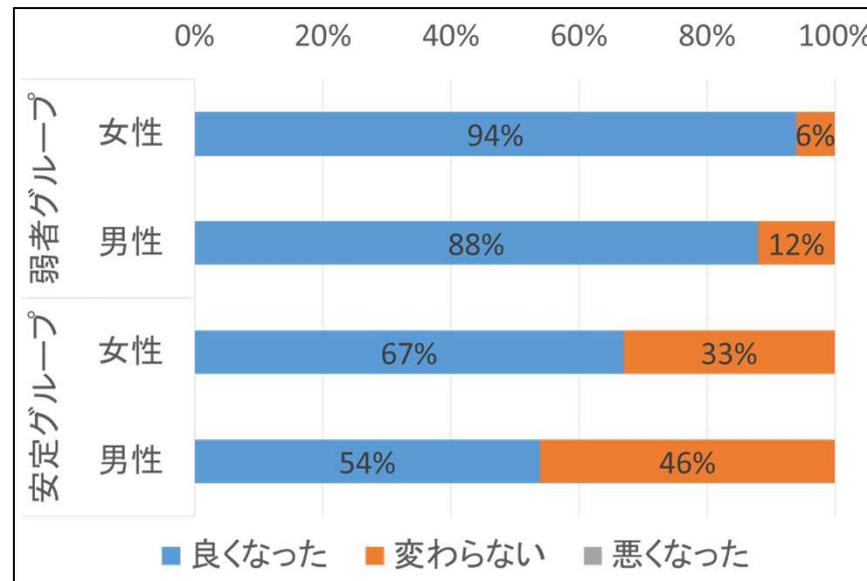
(コミュニティグループ240人:グループ外240人を比較)

*プロジェクトは、患者と患者家族、保健活動に関心のある人、をメンバーとして、コミュニティレベルで12のグループを形成し、ワークショップとモニタリングを年に2回実施してきた



この事業開始後の体調の変化

(コミュニティレベルのグループの中で、弱者グループ3つ(60人)と安定グループ3つ(60人)を比較)



教訓:

- ・コミュニティベースでアプローチすることで健康推進がより浸透した。
- ・農村部、貧困層、女性といった脆弱層に特に良い効果が確認された。
- ・贅沢病、都市化の副産物ととらえられがちなNCDsは、脆弱層には少ないという誤った見解があるが、リスクや有症率に差異はない。
- ・NCDsに罹患した脆弱層の多くは適切な治療にアクセスできない(健康保険なし)。

脆弱層へのNCDsリスク低減策の徹底は急務。コミュニティアプローチは有効

申請案件：クルナ管区の非感染性疾患に対するコミュニティ強化事業

事業の必要性(背景)

- 全国的に経済状況・年齢に関係なく、NCDsリスクが拡大し、弱者層には治療の機会がない。
- 先行案件でコミュニティベースアプローチがNCDsのリスク低減に効果があることが分かった。この活動を担う組織が必要
- 健康増進の浸透には年月を要するが、住民に対し、継続的・網羅的に情報発信ができる人材が不足
- 支援を必要とするNCDs患者数の増加を食い止めるために、原因となる環境を改善することが急務
- バングラデシュにおけるNCDsの負荷と対策実施後の変化の記録・データが少ない

問題を解決する対策

- 地域レベルのNCDs対策活動の担い手を、社会支援グループから政府のコミュニティ・グループに移行し、強化する
- 多様な組織にNCDs対策ボランティア育成する
 - 学校教師、保健ワーカー、ユニオン、ユースクラブ
- 地域ぐるみの環境改善推進する
 - 啓発・学校での健康教育
 - 健康診断キャンペーン
 - 水質検査実施、改良かまど、家庭菜園、運動習慣形成の推進
 - モバイル健康推進キャンペーン
- クルナ管区9ユニオンでの実施する

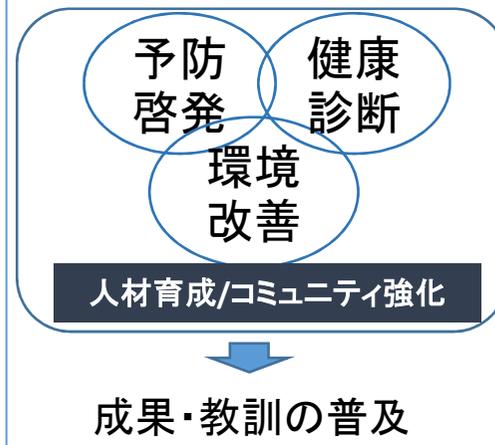
コンセプト

コミュニティの非感染性疾患のリスクを克服する力の向上

方針「4つの配慮」

- 価格
 - 住民自身が、官民の既存サービスを活用して実施することで安く
- 持続性
 - 地域の保健施設・人材を強化・活用
- サービスの質
 - ボランティアや保健人材を実地で強化
- 利便性
 - 遠くに行けない女性/障害者/高齢者が参加しやすい場所でサービス提供

ポジションイメージ



期待される成果

- ショドル郡内60のコミュニティ・クリニックと運営母体のコミュニティ・グループのNCDsの活動が移行
- NCDs対策ボランティア1700人育成
- 啓発・健康診断・環境改善の実施
- 先行案件と本事業のデータが蓄積・分析され、教訓が導きだされる
- クルナ管区9ユニオンにて、人材が育成され、啓発・指導・健康診断・環境改善が実施される

取組期間

クルナ管区のNCDsに対するコミュニティ強化事業：2016年3月～2019年3月